特定非営利活動法人　ワネッツ

活 動 報 告 書

2017 年度（第1期）

（2017年 4 月 8 日　～　2018 年 3 月 31 日）

2018 年 6 月 20 日

１．活動の目的

１－１．決意

特定非営利活動法人ワネッツ（以下「ワネッツ」という。）は、以下の決意のもと 2017 年４月６日に設立しました。

私達は、嶺南地方を中心に、この地域の人口構成上の中核となる高齢者によって、イノベーション（従来のモデルを改革して社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動）を進めるために、特定非営利活動法人を設立する。 また、この法人が管理運営する「地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR：ニーター）は、緊急時において不公平感のない中立的な組織として、行政のみならず自主防災組織などの住民自主活動も支援する。これは、この地域の災害の復元力（レジリエンス）の向上にも大きく寄与するものであると信ずる。 さらに私達は、この法人に組織管理手法（マネジメントシステム）を取り入れ、常に継続的改善、自己改革ができる組織をつくり、「原子力発電所がある地域は元気な地域」と呼ばれるようになることを目指し、この実現のため「終わりなき挑戦」をする覚悟である。

１－２．目的

この決意のもと、法人の目的をワネッツの定款において以下のように設定しました。

特定非営利活動法人ワネッツは、地域住民、地方公共団体および原子力事業者等に対して、原子力緊急時における防護対策および災害応急対策ならびにこれらの準備に関する支援等を行い、地域の防災・減災力の向上に寄与することを目的とする。

１－３．事業

この目的を達成するため、特定非営利活動促進法で定める災害救援活動および地域安全活動の領域で、以下の５つの非営利事業を実施することとしました

(1)　地域住民のための原子力緊急時援助隊運営事業（以下、「NEATR 運営事業」という）

(2)　地域住民のための原子力緊急時援助隊隊員等研修事業（以下、「NEATR 隊員等研修事業」という」

(3)　緊急時ツール開発管理事業

(4)　原子力緊急時知識普及事業

(5)　関連付随事業

２．活動の成果

２－１．特定非営利活動事業おける成果

ワネッツの定款に定める５つの事業に関して、以下の 10 個の個別事業(内１個は NEATR 有志が行い、その成果をワネッツが引き継いだもの)を行い、それぞれの事業についてマネジメントサイクルを適用してアフターアクションレビュー（ＡＡＲ）およびパ

ーフォーマンス評価等を行うとともに、これら事業の継続的な改善に資する教訓を得ました。詳細を本報告書第３－１項に示す。

なお、個別事業の決算は、本報告書に付随する決算書に示します。

	個別事業	実施時期	参加者
(1)NEATR 運営事業	①高浜町原子力防災訓練支援	2017.11.26	内部 17 名 外部約 200 名
	②コマンドシステム説明会	2017.3.25~6.3 (3 回)	内部 29 名 －
(2)NEATR 隊員等研修事業	③NEATR コマンドシステム研修	2017.10.13	内部 11 名 －
	④世代間・地域間交流事業	2018.2.24	内部 21 名 外部 11 名
(3)緊急時ツール開発管理事業	⑤放射線フィールド研修(直線近似法の考案)	2017.9.3	内部 7 名 外部 3 名
(4)原子力緊急時知識普及事業	⑥SVCF 院内研修講師派遣	2017.5.18~10.26 (2 回)	内部 4 名 外部約 30 名
	⑦野坂地区放射線講習会	2017.6.25	内部 7 名 外部 31 名
	⑧敦賀市広域避難研修支援	2017.11.19	内部 3 名 外部 11 名
	⑨福井大学シンポジウム講師派遣	2017.11.25	内部 2 名 外部約 70 名
(5)関連付随事業	⑩レジリエンス一般テキスト配布	2017.9.25~ 2018.2.24	― －

２－２．その他事業（収益事業）における成果

該当ありません

２－３．運営における成果

ワネッツの運営は、定款に定める事業が成立し、かつ継続的な改善が可能となるよう、以下の活動を実施し、それぞれ、前第２－１項に示した成果に寄与させることができました。なお、第１期においては、d 項の継続的な寄付収入については、アウトカム（成果指標）を設定して行った結果、これを達成しました。詳細を本報告書の第３－４項に示します。

なお、発足当初、NEATR の緊急時活動に関しての自治体との覚書締結および近隣府県への展開および公益事業の受託を運営目標としていましたが、時期尚早等の自治体側反応で進展がなかったため、本報告書からは割愛しました。

(1) 重要な規定の制改定および契約の締結

(2) ワネッツの正会員および賛助会員獲得

(3) NEATR の隊員獲得

(4) 継続的な寄付収入

(5) 補助金等の申請

(6) コマンドシステムの導入、定着

(7) ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

3．事業の実施に関する事項

3－1　特定非営利活動に関する事業

前2－1項の個別事業は、目的を明確にした計画の作成、計画に基づく実施、アフターアクションレビュー（AAR）の実施、および見出した事実と得られた教訓による改善というマネジメントサイクルで実施しました。

これらの活動の要点となるものは、実施する目的であり、その目的に対してどれだけ到達したかを表すため、パーフォーマンス評価を行いました。なお、「見出した事実と得られた教訓」については、アフターアクションレビューによるものとしました。

これらの詳細を添付資料―1に示します。

NPO 法人等の活動の主な評価要素である社会的インパクトについて、様々な手法が提案されている状況にはありますが、ワネッツではプレス公開とその反応という視点でまとめています。

3－2　その他の事業（収益事業）

該当ありません。

3－3　理事会および総会に関する事項

（1）理事会

理事会はワネッツ発足以降、会計年度終了後の定期総会まで、都合 4 回開催し、総会に諮る議案を審議しました。

実施日	出席	議題	採否
2017.4.12	6 人／6 人中	・特定非営利活動法人ワネッツ役員会規定の制定について ・任意団体 WANET で策定した規定類の引継ぎについて ・NPO ワネッツの事務処理委任に関する契約の締結について	全会一致で可決決定 なお、3 つ目の議案は利害関係のある理事を除く理事で可決決定
2017.7.15	6 人／6 人中	・役員(理事)の選任について ・平成 29 年度定期総会の開催について	全会一致で可決決定
2018.4.7	9 人／9 人中	・原子力安全技術センターとの協定締結について ・ワネッツシニアアドバイザー契約書について	全会一致で可決決定
2018.6.2	9 人／9 人中	・定款の変更について ・第 2 回定期総会の開催について ・福井県知事あての活動報告等について	全会一致で可決決定

（２）役員会

ワネッツの役員会は、３－４（１）項で述べる役員会規定に基づき、会計年度終了後の定期総会まで都合 7 回開催し、主に NEATR の活動計画および活動結果の評価を行いました。

実施日	出席	議題	採否
第 1 回 2017.4.12	7 人／ 7 人中	・(理事会の議案) ・ワネッツ初年度の会費徴収、会員獲得および寄付募集等について ・ワネッツの始動イベントについて ・立地市町向けイベントについて ・民間助成金の申請について ・福井県ボランティアセンターニュースレターの投稿について	全会一致で可決決定
第 2 回 2017.7.15	7 人／ 7 人中	・(理事会の議題) ・コールインドリルについて ・当面の活動について	全会一致で可決決定
第 3 回 2017.9.25~	7 人／ 7 人中	・無償経費評価収支計算について ・コマンドシステム研修実施計画について ・原子力に関する世代間・地域間交流事業実施計画書案について	全会一致で可決決定
第 4 回 2017.12.20	11 人／ 11 人中	・地域間世代間交流事業の実施計画について ・平成 29 年度 NEATR 定期総会の準備について ・コマンドシステム改善について ・当面の活動について	全会一致で可決決定
第 5 回 2018.2.2	11 人／ 11 人中	・NEATR 定期総会の議案等について ・NUSTEC との協定締結について ・地域間世代間交流の実施計画について ・ワネッツの事業リスクについて ・ワネッツ規定類の改定について	全会一致で可決決定
第 6 回 2018.4.7	11 人／ 11 人中	・（理事会の議案） ・ワネッツシニアアドバイザー候補者キャラバンの実施について ・2018 年度新規会員、隊員の募集について ・機関紙改善委員会の設置および報告について ・当面の活動について	全会一致で可決決定
第 7 回 2018.6.2	11 人／ 11 人中	・(理事会の議題) ・前回役員会での議論項目について	全会一致で可決決定

（３）総会

ワネッツの総会は、定款に基づき、第 1 期のものとして 2017 年 7 月 31 日にメール方式で行いました。議題は理事を 6 人から 9 人に、監事を 1 人から 2 人に増員するというもので、全会一致でこれを承認しました。

（4）監査

監査は、ワネッツの会計規則に基づく業務監査（個別事業の決算）を、2017 年 7 月 19 日、2017 年 12 月 21 日および 2018 年 3 月 26 日の 3 回実施し、それぞれ適正に処理されていたとの報告を受けました。

また、ワネッツ定款に基づく会計監査を 2018 年 4 月 25 日に実施し、適正に処理されていたとの報告を受けました。この監査結果については、ワネッツの第 1 期決算書中に掲載しました。

3－4　運営に関する事項

（1）重要な規定の制改定および契約の締結

ワネッツの発足にあたり、まずはワネッツの運営を開始するにあたり、次表で示す内部統制基準を役員会で決定しました。なお、役員会は、定款に定める理事会や NEATR 規約に定める指令本部会議等を柔軟に適用するもとして設定しました。

	年月日	件名
定款	2017.4.6	特定非営利活動法人ワネッツ　定款 NPO 法人ワネッツの目的、事業、会員資格、法人の運営などを定めた根本規定。
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ　役員会規定 定款に定める理事会、NEATR 隊員規約に定める本部会議などを一括して行える会議体を設置する規定
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ　プライバシーポリシー 法人会員、NEATR 隊員の個人情報保護方針等を定めたもの
規定	2017.4.12 （改 18.2.2）	特定非営利活動法人ワネッツ　旅費規定 会員、NEATR 隊員の活動における交通費、実費相当日当の算定基準等を定めたもの
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ　会計規則 NPO 法人会計規則に基づき、NPO 法人ワネッツの会計処理の方法、勘定科目等を定めたもの
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ　隊員褒賞規定 NEATR 隊員の NPO 法人ワネッツの活動への貢献に対する褒賞基準を定めたもの
規定	2017.4.12 （改 18.2.2）	地域住民のための原子力緊急時援助隊　隊員規約 NEATR の隊員資格、隊員権利、隊の運営等を定めたもの。
契約	2017.4.12	事務処理委任に関する契約書 ㈱EPR クリエイトと、NEATR 隊員への諸連絡、NPO 法人ワネッツの会計整理等を単価契約方式で行う契約書

（2）ワネッツの正会員および賛助会員獲得

ワネッツの初年度の活動開始にあたり、ワネッツの正会員と賛助会員の拡大のための活動を行いました。

この活動はダイレクトメール方式により、準備組織において参加意向調査に応答のなかった該当者を新規勧誘者として行いましたが、次表に示すとおり、応答率は低いも

のでした

。

	応答者数	備考
発送数	６８５名	35名会員への連絡を含む
内新規勧誘者	４８１名	
回答数	１６５名	応答率　２４．１％
内新規勧誘者	４０名	応答率　８．３％

また、2018年の年始にあたり、関連企業に賛助会員となっていただくよう要請活動を行ました。

これらの結果として、出入りはあったものの、総数としては、期待どおりのものとなりました。（特にアウトカム指標は設定しませんでした）

区分	正会員		賛助会員	
	個人	団体	個人	団体
会員数	３６人	0	２１人	9
期始めより増	１４人	0	４人	9
期始めより減	３人	0	０人	0
所在地等	福井県２５名、大阪府８名、兵庫県８名、奈良県６名、京都府４名、滋賀県４名、その他２名（賛助：団体除く）			

（３）NEATRの隊員獲得

前項の初年度会員獲得にあわせ、新規隊員募集も行いました。その結果、脱隊者も多く、期待した参加者数は達成できませんでした。（特にアウトカム指標は設定しませんでした。）

	隊員	支援隊員
隊員数	７２名	６７名
期始めより増	６名	９名
期始めより減	６名	８名
平均年齢(概算)	約６９才	
所在地	福井県８５名、兵庫県２２名、大阪府１４名等	
NEATR 隊員プロフィール（重複あり）	現職時代の職能 発電・運転２６人、安全管理１７名、技術品証１５名等 主な資格等 RI主任１２名、英検１級等８名、炉主任７名等 地域の役員（経験含む） 自治会等役員４６名、行政関係委員６名等	

（４）継続的な寄付収入

会員獲得および隊員獲得にあわせ、寄付のお願いも実施しました。この寄付については１口を3,000円として、3,000円以上100人以上というアウトカム指標を設定しました。

その結果、3,000円以上寄付が115人となり、アウトカム指標は達成しました。なお

寄付者名簿は、事務局に備え付けました。

（５）補助金等の申請

初年度にあたり、ワネッツの財政安定化の観点から、当初活動計画に基づき下表に示す各種の補助金・助成金の申請を行いました。

その結果、２件について申請が認められ、所要の決算を行い報告し、補助金等の支給を受けました。

申請先	応募案件	申請件名(応募事業名)	結果
日本財団	ソーシャルイノベータ支援制度 2017	放射線フィールド体験事業	物理的障害発生により申請中止
福井県労働政策課	蓄積された経験・知識技能を生かした地域貢献活動	地域ボランティア団体への放射線知識共有活動	6/1　決定通知書受領 交付額　96,000 円
福井県女性活躍推進課	人口減少に歯止めを、頑張る県民共同グループ応援事業	原子力技術に関する世代間および地域間交流活動	6/30　決定通知 総額　868 千円 補助　155 千円
資源エネルギー庁エネルギー政策課	住民等とのリスクコミュニケーションを行う人材等の育成事業	放射線測定ワークショップ	6/14　不採択通知
復興省被災者支援班	心の復興事業	ファラドフェア 2017 イン福島	7/25　不採択通知

（６）コマンドシステムの導入、定着

NEATR コマンドシステムは、緊急時において住民保護に貢献しようとする貴重な意思を集団としての目的に一致させるためのシステムとなっています。これは 2017 年 2 月に㈱EPR クリエイトが開発したプロトタイプで、３－４(4)項の契約により、ワネッツに供されているものとなっています。

このシステムの定着を図るため、2017 年 9 月にコールインドリルを実施しました。また、２－１項で述べた説明会やその他、適用可能な事業で活用するとともに、活動のパーフォーマンス測定にも用いました。

（７）ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

コマンドシステムのコマンドウェブとして使用することおよび、関係者に情報を伝達することのため、NEATR 専用ホームページを開設し、ワネッツ発足時から活用しました。

また、ワネッツの会報は第 1 期において 4 回発行し、NEATR の機関紙である“ウィズハート”も第 1 期において 4 回（NEATR 発足以降、都合 7 回）発行しました。

これらの状況を下表に示します。なお、機関紙については、第 6 号でアンケート調査を行い、役員会に機関紙改善検討員会を設け機関紙構成等を検討し、第 7 号にその成

果を反映しました。

（会報）・・定期記事（本会計状況、事業会計状況、活動日誌、諸連絡）除く

号	発行日	内容	備考
1	17.4.28	挑戦始まる　特定非営利活動法人ワネッツがスタート 第１回 NPO ワネッツ役員会を開催しました 任意団体 WANET は解散しました	
2	17.8.22	平成 29 年度会員、隊員勧誘結果について 平成 29 年度定期総会の結果について 事業請負等の活動について	
3	17.12.25	平成29 年度第３回および第４回役員会について ワークショップ参加学生の募集について 12月8日、福井県主催スクリーニング研修に参加しました 12月18日、福井県主催安定ヨウ素剤研修に参加しました ワネッツ会員特典サービスについて	
4	18.4.26	NPO 法人ワネッツ役員会の開催状況 規定類の改正について 原子力安全技術センターとの協定締結について 賛助会員の募集結果について	定期総会までは、第 1 期発刊として扱う

（機関紙）・・定例記事(活動報告、コマンドシステム特集、今後の活動予定、NEATR のＫ・Ｓ・Ａ、チャレンジＫ)を除く

号	発行日	内容	備考
4	17.4.28	NPO認証書の受領 法人格の取得についての理事長メッセージ 3月24日(金)、高浜町と合同で放射線研修会を開催しました 合同放射線研修会のアンケート結果をまとめました	
5	17.8.22	特集１　コールインドリルの実施について 特集２　「被ばく」から「放射線リスク」へ	
6	17.12.25	今年の活動を振り返って 特集1　公開ワークショップ「パスウェイを知る」について 特集2　平成29年度NEATR 隊員総会の予定について	
7	18.4.26	2月24日(土)、NEATR 第2回定期総会に参加して 特集１　NEATR とパスウェイ 特集２　機関紙アンケート結果	定期総会までは、第 1 期発刊として扱う

以上

特定非営利活動法人　ワネッツ

第１期
事業報告書　添付資料

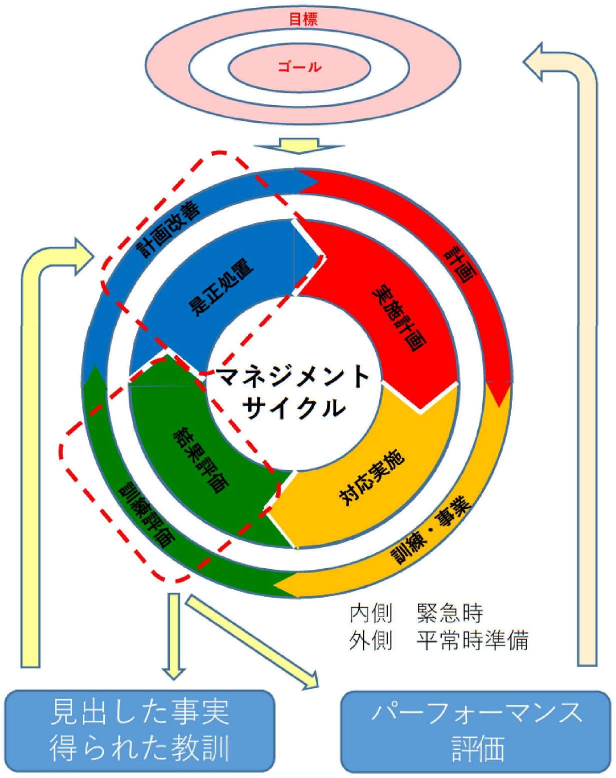
2018年6月20日

NPO法人ワネッツとNEATRの関係

1

	地域住民のための原子力緊急時援助隊(NEATR)	特定非襟理活動法人ワネッツ
性格	任意団体 (**平成28年12月17日発足**) 平常時、緊急時とも実際の活動を行う	特定非営利活動法人 (**平成29年4月6日設立**) NEATRを運営する
目的	緊急時の**混乱の発生を回避する** 平常時は地域レジリエンス向上活動	地域の防災・減災力の向上に寄与 これを実現するために**事業を実施する**
参加資格	若狭地方原子力職場の退職者で若狭方面または、京阪神方面に居住、会費等なし	制限なし 加入金、年会費が必要
義務	隊員の義務は一切なし、加入・脱退自由	会員は定款に基づき権利、義務あり
現勢	隊員　７２名、支援隊員６７名 計１３９名　(平均年齢　約６９才)	正会員　　３６名、賛助会員　　３０名
会計	NPO法人ワネッツが実施 隊員の平常時活動は旅費規定適用、緊急時はボランティア	法人会計規則準拠(本会計と事業会計) 収入は、会費、寄付金、事業収入等 支出は、人件費、事業支出、管理費等
会議体	NEATR指令本部会議 (緊急時はNEATR戦略会議を兼ねる)	役員会(規定による)、理事会(定款による)
構成	隊長1名(肥田善雄)、副隊長3名、班長7名 (NEATRコマンドシステム適用)	理事長1名(肥田善雄)、副理事長1名、理事6名、理事・事務局長1名、監事2名 (会計規定、旅費規定等整備)

ＮＥＡＴＲの活動の特徴



- 平常時の事業および緊急時の対応とも、マネジメントシステムを適用し、**PDCAサイクル**をまわす。（左図参照）
  このため、作成した計画には、脆弱性があるものとして、それを実施段階で**“事実”**として見出し、その事実から**“教訓”**を得る方式をとる。
- 平常時の事業は、**緊急時の準備**として位置付ける。（講習会講師派遣などは“顔の見える関係の構築”）
- 平常時の事業であっても、原則として、NEATRコマンドシステムを使い要員参集、ミッション実施および報告を行う。
- 平常時および緊急時とも、目標は高めに置き、その高い目標にどれだけ近づいたかを**パーフォーマンス評価**する。

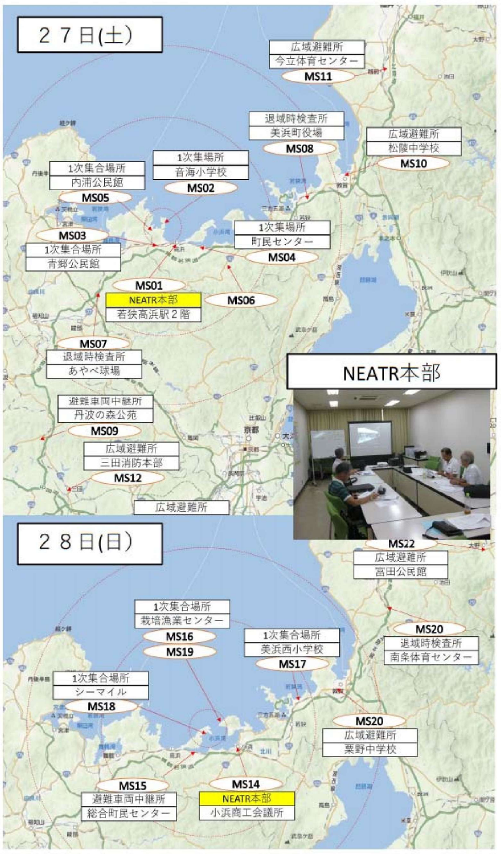
ＮＥＡＴＲの活動実績

区分	活動項目	実施日	参加人数(一般参加者)	新聞報道(取材社)	
①NEATR運営事業	原子力防災訓練における外部評価	H28.8.27~28	39名(０)	－	4
	高浜町原子力防災訓練支援(放射線防護対策施設講習会)	H29.11.26	17名(約200)	0社(1)	5
	コマンドシステム説明会	H29.3.25~6.3	29名(0)	－	
②隊員等研修事業	高浜町・ＮＥＡＴＲ合同放射線研修会	H29.3.24	23名(15)	3社(3)	6
	ＮＥＡＴＲコマンドシステム研修	H29.10.13	11名(0)	5社(5)	7
	地域間・世代間交流“ワークショップ　パスウェイを知る”	H30.2.24	21名(11)	1社(2)	8
③ツール開発等事業	放射線フィールド研修(ホットスポット捜索直線近似法の考案)	H29.9.3	7名(3)	－	9
④知識普及事業	ＳＶＣＦ研修会への講師派遣	H29.5.18~10.26	4名(約30)	－	10
	敦賀市野坂地区放射線研修会への講師派遣	H29.6.25	6名(31)	－	11
	福井大学シンポジウムへの講師派遣	H29.11.25	2名(約70)	1社(？)	12
	敦賀市広域避難研修への講師派遣	H29.11.19	3名(11)	－	13
⑤関連事業	ＮＥＡＴＲ発足記念講演会	H28.12.17	43名(約40)	9社(9)	14
	レジリエンス一般テキストの会員向け販売	H29.9.25~	－	－	15

原子力防災訓練における外部評価

4

1．日時　平成28年8月27日(土)~28日(日)
2．場所　福井県嶺南方面、嶺北方面
　　　　京都府北部、兵庫県南部
3．目的（コマンドシステム構築を含むもの）
　本年12月の創設を目指して準備している「地域住民のための原子力緊急時援助隊(ＮＥＡＴＲ)」の緊急時支援活動について、三府県合同の原子力防災訓練等の場を活用し、この活動の成立性を検証し、活動手順の作成に資する教訓を抽出するとともに、自主的なものとして実施場所毎において訓練そのものの評価を行う。
4．実施内容
　仮NEATR本部、住民バス避難、要配慮者避難、避難退域時検査および避難所において、米国基準を参照して、それぞれに配置したNEATR隊員により訓練の外部評価を行う。(延べ39名参加)
5．評価(事実と教訓)
　NEATR隊員の訓練評価の斉一性の確保、および評価チェックシートの改善



高浜町原子力防災訓練支援(放射線防護対策施設講習会)

5

1．日時　平成29年11月26日(土)　8時~12時
2．場所　福井県高浜町内(旧音海小中学校、内浦公民館、
　　　　　青郷公民館、関電NPTC)
3．目的
　高浜町が計画実施する平成29年度高浜町原子力防災訓練(福井県原子力防災訓練個別訓練)において、NEATRコマンドシステムを用いたリアルな想定に基づき、高浜町から要請を受けた支援を確実に実施するとともに、参加するNEATR隊員の知識・技能の向上をはかる。
4．実施内容
　実施場所での放射線測定ワークショップ（測定器、天然線源、パネル、模型を用いる)とNEATR指令本部の運営NEATRコマンドウエブおよびCOPを用いる）(17名参加)
5．評価(事実と教訓)
　隊員の目標や目的意識を明確に伝えること、アフターアクションレビューは必ず実施すること、計画どおり進まないときのモチベーション保持方策を検討すること。

高浜町・ＮＥＡＴＲ合同放射線研修会

6

1． 日時　平成29年3月24日(金)　13:30~16:30

2． 場所　高浜町役場　会議室

3． 目的

　高浜町と合同で、防災機関として準備している放射線測定器の種類、構造等を学び、実際に放射線源を用いて計測し、測定器の用途ついての講演、NEATRによる運用上の介入基準（OIL）についての講演、放射線測定ワークショップ（高浜町職員15名、NEATR23名）

4． 実施内容

- 放射線測定器についての講義
- 運用上の介入レベル(OIL)の説明
- 放射線測定ワークショップ

5． 評価(事実と教訓)

　隊員間で実績を共通情報とすることが重要、放射性物質と放射線リスクを実感できる方法の検討が必要

研修会で使用した放射線測定器

研修会風景

意見発表

ＮＥＡＴＲコマンドシステム研修

7

NEATR指令本部

COPの利用風景

鴻ノ池運動公演にて

1. 日時　平成29年10月13日　7:00~12:00

2. 場所　敦賀市白銀町　ワネッツ事務所
　　　　敦賀市野坂地区、滋賀県草津PA、奈良市鴻ノ池運動公園

3. 目的

　敦賀市野坂地区親睦会の原子力災害避難先視察研修にあわせ、NEATR 隊員および支援隊員がそれぞれの場所において、NEATR コマンドシステムを用い住民避難の支援を模擬する研修を行う。これにより、関係者のNEATR コマンドシステム対応の習熟を図るとともに、同システムの改善点を抽出する。なお、この目的に従い、パーフォーマンス指標を用いてフィールド研修を評価するとともに、アンケート方式のAAR(アフターアクションレビュー)を行い、NEATR コマンドシステムの継続的改善に資する教訓を得る。(11名参加)

4. 実施内容

MS0 NEATR 指令本部、MS1 要配慮者支援、MS2 1 次集合場所、MS4 避難退域時検査場所およびMS6 広域避難場所のミッションをICSフォームおよびミッションシートに基づき行う。

5. 評価（事実と教訓）

公衆に意思が伝わる用語とする、ターミノロジーを完成させる、シナリオ上のゴールを示す、COPはあり方を含め検討する。

地域間・世代間交流ワークショップ“パスウェイを知る”

8

1．日時　平成30年2月24日(土)　13:30~16:30
2．場所　敦賀市　あいあいプラザ
3．目的
　経験豊富な原子力シニアとこれから希望を持って原子力を学ぶ学生との間で、原子力エネルギーの生産地の生活と消費地という生活環境を踏まえ、放射性物質の移行と実効線量の関係について、モデルを使った体験的学習により、共通認識を持てるよう、このワークショップを開催する。
4．実施内容
・　シニア、学生との意見交換
・　ワークショップ「パスウェイを知る」
　（各グループ結果発表、意見交換）
5．評価(事実と教訓)
・　事業を計画する場合、その事業の目的について関係者で十分に議論すべきである。
・　関係者間でのパスウェイの認知度を高める必要がある。
・　プログラムに疑義があったこと、正確に評価するとどうなるかということを参加者に知らせるべきである。

ワークショップの状況

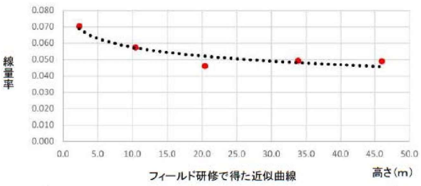
ワークショップの状況

学生による結果発表

放射線フィールド研修(ホットスポット捜索直線近似法の考案)

8

1．日時　平成29年9月3日(土)　9:00~12:00
2．場所　福井県小浜市勢浜
3．目的
　NEATR隊員の放射線リスクセルフアセスメントを空中から実施できるよう技術開発する。
4．実施内容
　基準点を定め放射線測定器をつけたドローンを垂直に飛ばし、その高度をレーザー測定器で測りドローンカメラで線量計の値を読み取る。その高度と線量計の値をグラフにプロットし、近似曲線を求める。
　ドローンで別の空中の高度線量計値を測定し、求めた近似曲線で、地表面の放射線量を推定する。(一般3名、NEATR7名)
5．評価(事実と教訓)
　技術的には近似曲線法が可能であることが分かった。この方法でホットスポットを見つけ出すことができるかどうか、福島の地で検証してみることが必要。



求めた近似曲線

レーザー計測器による高度測定

小浜市勢浜にて

SVCF研修会への講師派遣

9

SVCF通信
―第61回SVCF院内集会―
(特活)ワネッツのお話を聴いて

NEATR指令本部

放射線の説明

近似曲線法を説明

1． 日時　平成29年5月18日(木)　11:00~13:00
平成29年9月27日(木)　13:00~14:00
平成29年10月26日(木)　11:00~13:00

2． 場所　東京都千代田区　参議院議員会館、第二衆議院議員会館

3． 目的
　福島原発行動隊(SVCF)の要請に応じ、放射線に関する講演を行うとともに、福島帰還住民の方の声を聴き、協同して帰還促進の活動を行う

4． 実施内容
　放射線に関する空気の支配から脱却するため、協同してホットスポット捜索を行うことを提案し、実際に帰還された方からこの提案の賛否をうかがう。なお、復興省の公募事業として計画

5． 評価(事実と教訓)
　帰還された方の意見は、ホットスポット捜索は迷惑な話である、帰還できないのは放射線の問題ではないというお話を頂き、計画は中止

敦賀市野坂地区放射線研修会（ワークショップ）講師派遣

10

1． 日時　平成29年6月25日(日)　15:00~15:30

2． 場所　敦賀市野坂地区公民館

3． 目的
　天然放射線源からの放射線の存在を知り、時間、距離、遮へいといった放射線防護の基本行動を楽しく体得することを目的とする。

4． 実施内容
　天然線源と放射線測定器を用いて、実際に放射線を測定し、参加された方とNEATRで対話を行う。（野坂地区住民約25名、NEATR6名）
　なお、「放射線の基礎知識」講演に引き続き実施

5． 評価(事実と教訓)
　ワークショップ形式は有効である、放射線の理解は病院関係の話がよい

野坂公民館にて

福井大学シンポジウム講師派遣

11

講演資料　部分

1．日時　平成29年11月25日(土)　15:00~15:30

2．場所　敦賀きらめきみなと館

3．目的
　福井大学付属国際原子力研究所からの要請で、同大学が主催する「防災・日本再生シンポジウム」において、講演を行う。

4．実施内容
　「住民避難の教訓を生かす原子力緊急時援助隊」のテーマで、檀上において２名が質問回答する対話方式で講演を実施

5．評価(事実と教訓)
　シンポジウムの流れに乗る説明が必要、対話方式は改善し継続する

敦賀市広域避難研修講師派遣

12

1．日時　平成29年11月19日(金)　08:00~08:30

2．場所　敦賀市三島一丁目会館

3．目的
　敦賀市からの要請に基づき、敦賀市防災士会の奈良広域避難研修へ出発する前の説明を行う。

4．実施内容
　福井県作成資料に基づき、「安定ヨウ素剤について」および「スクリーニング(避難退域時検査)について」を説明
　この講師派遣は、NEATRコマンドシステムを用いて実施

5．評価(事実と教訓)
　防災士会の方には関心を持ってもらうことができ、次の機会が得られた

三島一丁目会館にて

用いたICSフォーム

NEATR発足記念講演会・発足式

13

1．日時　平成28年12月17日(土)
10:30~12:40　記念講演
14:40~15:10　発足式

2．場所　美浜町はあとぴあ

3．目的
NEATR設立総会（発足式）とこれにかかる記念講演会を実施する

4．実施内容
記念講演は、来馬福井工大来馬教授および福井大学安田教授の基調講演および山口美浜町長に参加していただきパネルディスカッション。なお、NPOワネッツの設立総会には、中塚町長、野瀬町長にもご参列いただいた

5．評価(事実と教訓)
良いスタートがきれた。これを生かしていく

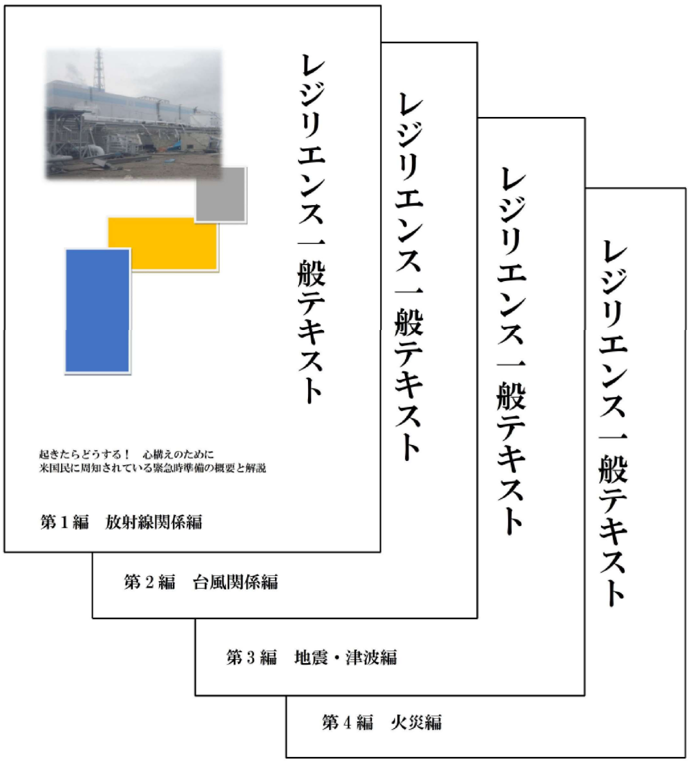
左から山口町長、中塚町長、野瀬町長

左から来馬教授、安田教授

はあとぴあ　にて

レジリエンス一般テキストの会員向け販売

14



1．日時　平成28年9月25日(月)　継続中

2．場所　申込書郵送方式

3．目的
自主的活動の原資とするため、レジリエンス一般テキストをNPO法人ワネッツの会員に販売する

4．実施内容
米国国家安全保障省の“Ready”を翻訳解説した「第1編放射線関係編」「第2編台風関係編」「第3編地震津波編」「第4編火災編」を販売、@500

5．評価(事実と教訓)
49冊販売した